



子実体の発生している個体



子実体がまだ発生していない個体

今年の8月17・18日、南アルプスの転付管理道（静岡県・山梨県境付近、標高約2,100m）沿いのシラビソ林にて、冬虫夏草の1種、コブガタアリタケ *Ophiocordyceps pulvinata* とと思われる種を確認しました。

この虫草は、折れて落ちたシラビソの小枝（直径3mm程度）に付いていました。それは、小枝にアリ（カラフトクロオオアリ *Camponotus sachalinensis*：標本写真から加須屋真先生に同定していただいた）が大顎で噛みつくとともに、6本の脚で小枝をかかえるような体制で死に絶えている状態にあって、一部の個体では、後頭部～胸部の背側にこげ茶色の子実体が見られました。

コブガタアリタケは、福島県飯館村で1986年に発見され、その後、長野県※1、山形県※1、群馬県※2、青森県※3等で、2006年には長野県・静岡県境※3で確認され、また2006～2009年には多数発生した※1と記録されています。

今回確認した転付管理道付近のシラビソ林内では、1時間程度の探索で、計10個体を見つけ、内2個体では子実体を見られたものの、残りの8個体では子実体は見られず、未成熟と考えられました。また、コブガタアリタケは、既存資料※1・4ではムネアカオオアリからの発生と記載されていますが、今回の確認はカラフトクロオオアリと思われるアリからの発生でした。

※1：冬虫夏草の文化誌、奥沢康正、2013

※2：ネット検索、http://cajpn.org/picturebook/Cordyceps/sp_kobugataaritake.html

※3：熊坂利秋氏私信

※4：カラー版 冬虫夏草図鑑、清水大典、1998